

数学

大阪大学 [理系] (前期)

<全体分析>

| | | | |
|------|-------|-------|-----|
| 試験時間 | 150 分 | 解答問題数 | 5 題 |
|------|-------|-------|-----|

解答形式
記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

昨 years が易しかった。今年は例年並み。

出題の特徴や昨年との変更点

例年に比べると数学Ⅲの比重がやや低めであった。

その他トピックス

文系との共通問題が 1 問あった。空間図形の出題が復活した。

<大問分析>

| 問題番号 | 出題分野・テーマ | 範囲 | コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど) | 難易度 |
|------|--------------|------------|--------------------------|-----|
| 1 | 数列の極限 積分法 | 数学Ⅲ | 定積分を利用して数列の極限を求める | 標準 |
| 2 | 平面ベクトル | 数学B | 内積、ベクトルの終点の存在範囲 | 標準 |
| 3 | 微分法 | 数学Ⅲ | 接線の方程式、微分法の方程式への応用 | やや難 |
| 4 | 空間ベクトル | 数学B | 空間における軌跡の問題 | やや難 |
| 5 | 確率 数列 | 数学A 数学B | 確率と漸化式 | 標準 |

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

いずれの問題も完答するには数学的な考察をしっかり行うことが必要であり、基本事項の単純な組み合わせで解決できるような問題は少ない。日頃の学習において、単に問題を解くことに満足せず、高度な知識を身につけることや、柔軟な着想や運用、また、表現の意味や問題の背景にある数学的内容を確認することなどに留意して学習してほしい。